

愛知県がんセンターでの診療情報および診療時に採取・保管された検体を下記機関に提供し、下記研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究責任者	愛知県がんセンター中央病院 遺伝子病理診断部・医長・加藤省一
2. 研究課題名	EBV関連疾患におけるウイルス変異・欠失に関する研究
3. 研究の目的・方法	EBVは悪性リンパ腫から胃がんまで様々な腫瘍性疾患(がん)の原因となっています。近年、EBV陽性の悪性リンパ腫患者の一部に変異したEBVが認められることがわかってきました。本研究では、EBV関連患者さんの病理組織を用い、EBVの変異の頻度、変異の見られる領域の特徴、および変異の有無と予後・治療反応性等との関連を明らかにします。具体的には、診断した病理標本からDNAを抽出してEBVの変異とがん細胞に生じた遺伝子変異を解析します。 研究期間: 2018年9月3日から2023年3月31日 (遺伝子解析: ①行う)
4. 研究の対象となる方	2003年4月1日から2018年3月31日までに、当院における病理組織診断で以下のEpstein-Barr virus (EBV)関連疾患と診断または疑われた方。 ・バーキットリンパ腫、ホジキンリンパ腫-混合細胞型(EBV陽性)、EBV陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、免疫不全関連リンパ増殖症、節外性NK/T細胞リンパ腫-鼻型、劇症型NK細胞性白血病、EBV関連T/NKリンパ増殖性疾患(慢性活動性EBウイルス感染症、EBV関連血球貪食性リンパ組織球症、種痘様水疱症、蚊刺過敏症)、その他EBV陽性リンパ腫。 ・上咽頭がん、EBV陽性胃がん、リンパ腫様肉芽腫。 ・伝染性単核症、口腔毛状白板症。
5. 研究に用いる検体・情報の種類	検体名: 病理診断を行った標本、病理組織からは、肉眼所見、病理所見、免疫染色の結果、病理標本を用いてのDNAの抽出、DNAを用いてウイルスとがん細胞に生じた遺伝子変異の変異を解析します。 診療情報内容: 電子カルテでの診療情報、電子カルテからは、年齢・性別・既往歴・臨床経過・採血結果・画像所見・生存期間・生死等の情報を収集します。
6. 他機関への提供方法	病理組織標本およびファイル化した臨床情報は、パスワード保護、匿名化したうえで直接研究代表者に手渡しします。
7. 利用する者の範囲	名古屋大学医学系研究科 ウイルス学(木村宏)

① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当センターの倫理審査委員会などにおいて厳重に審査され、承認されています。

個人情報の安全保護については、万全の体制下にて管理され実施されます。

また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。

- ② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いること、提供を拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

愛知県がんセンター 中央病院臨床試験部試験支援室
倫理審査委員会事務局

住所：〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

FAX：(052-764-2963)

e-mail: irb@aichi-cc.jp

(お問い合わせは、FAX、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)

【H29.10.1改訂】